



立川だより

東京都立立川学園
校長 市川 裕二
東京都立川市栄町 1-15-7
電話 042-523-1358

新学期に向けて

副校長 遠田 将人

9月1日から新学期が始まりました。久しぶりに幼児・児童・生徒の元気な姿を見ることができ、大変うれしく思っております。夏休みは充実した日々を過ごすことができたでしょうか。長い休みの間は、夜遅くまで起きているなど、生活習慣が乱れがちです。生活習慣が崩れてしまった方は、早めに元のリズムを取り戻せるよう心がけましょう。

さて、2学期といえば立川祭です。1学期から少しずつ準備に取り組んでいることと思いますが、9月からはいよいよ本格的な準備が始まります。今年のテーマは「晴れ渡れ！ 僕らの笑顔！～みんなの全てを出し切る立川祭～」です。一人一人が力を発揮し、思い出に残る立川祭になることを期待しています。まだ暑い日が続きますので、健康に気を付けながら準備や練習に励んでください。

本校の給食について

9月から、また給食が始まります。皆さんも給食の時間を楽しみにしていると思いますし、食べた後は幸せな気持ちになると思います。毎日何気なく食べている給食ですが、本校の栄養士や調理員の方々は、様々な工夫を凝らしながら日々努力を重ねています。今回は、本校の給食の取組について紹介したいと思います。

●調理について

①味だけでなく、見た目にもこだわっています。

食材の中で、ジャガイモ、サツマイモ、カボチャは家庭でもよく口にしたいと思います。この3つの食材は、火が通り過ぎるとすぐに崩れてしまうため、実は調理が意外に難しいのです。しかし、立川学園の給食に出てくるジャガイモ、サツマイモ、カボチャは、きれいな形を保ちながら中はホクホクで、とてもおいしく仕上がっています。ぜひ注目して見てください。

②食感にもこだわっています。

先ほど「中がホクホク」と書きましたが、立川学園の給食は食感も素晴らしいです。給食によく出てくる小松菜は、シャキシャキとした食感が楽しめます。これは、ゆで加減がちょうどよいことを表しています。また、唐揚げは外がサクサクで中はとても柔らかく仕上がっています。

●魚料理について

魚が苦手という人は多いと思います。私も子供の頃は魚が苦手でした。そんな魚を、立川学園では約50種類もの調理法でおいしく提供してくれます。

6月には「赤魚の西京焼き」というメニューが出ましたが、西京焼きにはどこか高級なイメージがあります。その他にも、「さばの香味焼き」や「鮭のねぎみそ焼き」など、家庭ではあまり口にすることのない手の込んだメニューがたくさんあります。栄養士や調理員の方々には本当に感謝しています。

皆さんも給食を食べるときは、ぜひ料理をよく観察してみてください。給食の楽しさがさらに広がりますし、大人になったときのよい思い出にもなると思います。

【 一人一人の人権を大切にしたい学校づくりに向けて 】

本校では、全ての子供が一人の人間として尊重され、安心して学校生活を送ることができる学校づくりを進めています。子供たちは皆、障害の状態や発達の段階、生活経験、得意なことや苦手なこと、コミュニケーション手段など、それぞれに異なります。そのため、一人一人の違いや思いを理解し、その人らしさを大切にしたい教育を行うことが重要です。

子供の人権を尊重するためには、日々の教育活動の中で、教職員が子供の立場に立って考えることが欠かせません。大人にとっては何気ない言葉がけや指導であっても、子供にとっては不安や困惑などを感じることもあるかもしれません。子供によっては、自分の気持ちや困っていることを十分に伝えることが難しい場合もあります。そのため、私たち教職員は、表情や行動の変化などにも目を向け、子供の小さなサインを見逃さず、一人一人の思いや願いを丁寧に受け止める姿勢を大切にしなければならないと考えています。

本校では、教職員一人一人が人権感覚を高めるため、人権に関する研修などを実施し、自分自身の言葉遣いや指導方法、子供との関わり方を振り返る機会を設けています。「子供のため」という思いが、いつの間にか大人の都合を優先した指導になっていないか、子供の意思や選択を尊重できているかなど、常に自らの教育活動を見直すことを大切にしています。

人権を尊重する取組は、教職員だけで進められるものではありません。子供自身が「自分は大切にされている」と実感するとともに、「自分も相手を大切にしたい」と思えることが重要です。日々の学習や学校生活を通して、自分と相手にはそれぞれ違いがあることを知り、その違いを認め合いながら、互いを尊重する心を育ていけるよう学校として取り組んでまいります。また、保護者の皆様とも、子供の成長や学校生活の様子について丁寧に情報を共有し、学校と御家庭とが共通理解をもって子供を支えていけるように努めてまいります。

2学期が始まります。何か気になることや御心配なことなどありましたら、どうぞ遠慮なく学校にお知らせください。子供の声を大切に、保護者の皆様の思いにも耳を傾けながら、よりよい支援につなげてまいります。

本校に在籍する全ての子供が「この学校で学ぶことができてよかった。」「自分は大切にされている。」と感じられる学校を目指して、今後も学校全体で人権尊重の取組を徹底してまいります。



タッチ部門 中学部・高等部担当副校長

香丸 純子

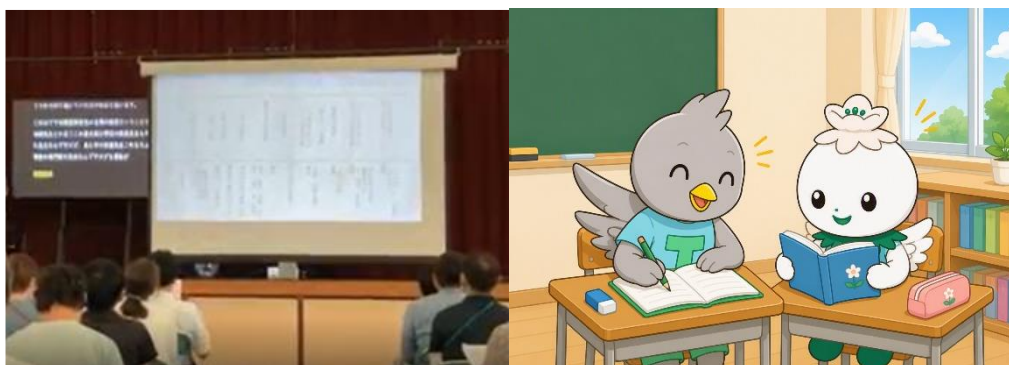
【本校の研究・研修について】

今年度、本校では「教科特性のある分かる授業」と「基礎学力定着のための指導」を研究テーマに、授業改善に取り組んでいます。「国語」「算数・数学」等、各教科のグループに分かれて、授業の工夫や支援方法について話し合ったり、外部専門家等から助言を受けたりして研究を重ねています。

夏季休業中には、講師として、信方壽幸先生（元教職員研修センター教育開発科教授／立川ろう学校第 15 代校長）と、海老沢穰先生（一般社団法人 SOZO.Perspective 代表理事）をお迎えし、全校講演会を行いました。

信方先生からは、国語の学習指導について、具体物や ICT 機器を活用したり、生活経験と結び付けたりしながら、学習を積み重ねていく重要性を学びました。海老沢先生からは、子供達の主体性や思考を深める授業作りや ICT の効果的な活用方法についてお話いただきました。

他にも、いろいろな方に講師に来ていただき、日々、研修を行っています。研修で学んだことを今後の授業に生かし、子供たちが「学びたい」「学んでよかった」と実感できるよう、指導の充実に努めていきます。



自分の歩みを「宝物」に。

自分を見つめ未来を創る。「本人のための記録」～キャリア・パスポート～

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「**キャリア発達**」といいます。そして、児童・生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲、能力や態度を育てる教育が「**キャリア教育**」です。特に、特別支援学校のキャリア教育は、児童・生徒一人一人の実態に応じて、「自立と社会参加」を目指し、自分でできることを増やしていこうとする意欲や態度を育み、卒業後の生活を視野にいれ、自らの生き方を主体的に考え、自己実現を果たしていこうとする能力や態度を育成することを目指します。キャリア教育を進める上では、児童・生徒一人一人が、自らの学習状況や生活の様子を振り返りながら、個々のキャリア発達を促していくことができるようにする教育的働きかけが重要です。そのため、令和2年4月から、全ての小学校・中学校・高等学校等において、児童・生徒が学習活動を記録し、蓄積する教材として、「キャリア・パスポート」の活用が始まっています。

キャリア・パスポートとは、児童・生徒が、自らの学習状況や日常生活等の振り返りをしながら、自身の変容や成長を自己評価できるように工夫した教材です。

本校においても小学校・中学校・高等学校等と同様に、すべての児童・生徒が自らの学習や生活面において振り返りを行うことができるよう作成をしています。（書式については部門や学部によって若干の違いがあります。）

1年間分のキャリア・パスポートは年度末に返却をいたします。御家庭で成長の記録として保管をお願いいたします。ぜひ、御家庭でも本人と一緒に成長を振り返るために御活用ください。

